

談話室

投稿をお待ちしています。この「市民談話室」は、市民の皆さんの意見交換の場です。テーマは自由です。あなたがふだん思っていること、お書きになって気軽にお寄せください。紙面の都合上、文を短くすることがあります。あて先は、〒九五〇一―二 白根市大字白根一―三五 白根市役所企画財政課広報広聴係です。



郷土は繁栄したけれど 先人の遺産は大切にしたい

桜井賢宝さん(庄瀬二倍りよ、68歳)



「庄瀬は米や果樹、野菜の宝庫」と、桜井さんは話す

代となりました。交通面で一步遅れをとった庄瀬は、陸の孤島、へき地となり、自動車以外に頼るものはありません。

橋が出来てバスが通り、家は近代的になり、消雪パイプやミシン会社、コンクリート会社などが出来、庄瀬は躍進しました。しかし、忘れてはなりません。

先人の残された農耕地、母なる信濃川沿線の堤外地、横場田上町)と庄瀬を結んだ連絡船や渡し場など、そのころの庄瀬繁栄の基礎となった尊いものがた

大切に、先人が苦勞して残した文化と家族制度、親族のきずなを堅く守ってゆくことにあります。



思い切って朗詠会に参加 なかなか難しいですね

小柳シウさん(中大郷農業59歳)

昨年三月、趣味の会として朗詠会のグループが出来ました。最初に誘いかけられた時、調子はずれて歌も苦手な私は、不安が先立ちました。

思い思いに吟ずる人、演歌の人民謡をやる人など、和やかなうちに終わりの時間になってしま

戦後、地主と小作の関係がなくなり、主食は米飯でなくパンやめん類に。地主から開放された土地は工場団地に変わり、専業農家撲滅の現

やがて一年になります。今では月二回の集まりが楽しくなってきました。しかしながら、なかなか難しく、自分ではまだ思うようにはできませんが、これからはがんばりたいと思っています。



未成年者の酒、タバコは なくしたいものです

伊勢亀文子さん(古川農業46歳)

先日、ラジオでこんな話を聞きました。子供が幼い時に母親が亡くなり、父親は再婚もせずに子供を育てました。

飲みますが、タバコは吸いません。長男が高校へ入学すると間もなく、私は「父ちゃんもタバコは吸わないし、じいちゃんも具合が悪いとやめたし、おまえ

も最初から覚えないうがいよ」と言いました。親の言葉を素直に受けただけ決めたことだと思います。酒とタバコだけが直接、非行へつながるとは言い切れませんが、自分の大切な体です。精神面や健康面などをよく考え、未成年者の酒、タバコをなくしましょう。



いじめ防止には まず健全な体力づくり

武田寅治さん(蔵主会社員59歳)

近ごろ、全国的に中学生の「いじめ」問題や事件がひんぱんに発生しています。新聞やテレビなどで報道されているのを目の当たりにして、誠に遺憾に耐えない気持ちでいっぱいです。

つい最近発生した、東京都中野区の中学二年生、鹿川裕史君の事件を新聞で読みました。全くあきれたことには、クラス担任の教師までが葬式ごっこに参加していたそうです。教育現場

に広がる深刻な「いじめ」問題が、二月七日の衆議院予算委員会でも取り上げられ、私は開いた口がふさがらないほどでした。これからの「いじめ」防止対策として、私なりの意見を述べてみたいと思います。

まず、クラス全員が一丸となって健全な体力づくりをすることが第一条件ではないでしょうか。昔からの格言に「健全なる身体には健全なる精神が宿る」とあるように、各クラスともに常に体を磨き上げることが大切だと思えます。

そして、学校と家庭が、よく連絡を取り合い、これに地域社会が協力して、悪い「いじめ」の空気を一掃し、一日も早く、明るい学校や教室をつくること

が急務だと思えます。



俳句

鶯の初音に目ざめ庭に出る 玉木 長吉
たそがれて家路はるけき夫婦鴨 波辺 勤
川柳
袖の下戸窓いながら手が伸びる 早川 英男
年金の実感両手に軽すぎる 山岡 フミ
手応えがあつて電話の声弾む 吉川 彰
要注意買の肺を泣かすコップ酒 吉川 末吉
丹精に育てた娘をくれてやる 米野 光雄
おしゃべりが寡黙になった反抗期 波辺 ミヨ
児童画の傑作ピカソもうろたえる 今井 七郎
生活が籠一杯の特売日 今井 タエ
歯応えがある子に育つ意地っ張り 岡村 清
背を向けた妻の余震がまだ続く 織田 セツ
マスコミのペンが疑念の謎を解く 後藤マサノ
おふくろの和服の出来は鯨尺 佐藤トミノ
隙間風吹いて戸惑う夫婦仲 佐藤 ヨキ

振る時期をまだ戸惑っている反旗 高橋祐四雄
屑物がみんなヤキモチ妬く名画 竹石 甚五
義理立てて飲む祝膳の辛い酒 田中 成子
辛口の鯨が生きている婚家 田村 恒夫
胃カメラのネガに戒められた酒 長井 徳市
政敵の綺麗なお口に含み針 中村 尚治
知った振りしたばっかりの気の疲れ 西条 ムラ
いたずらの孫に盆栽悲鳴上げ 野内藤太郎
短歌
困り取り未だ歪形の庭の木に 中村 京
かすみの如し春雨の降る 大野タケノ
運層にたがいが語る思い出に 笑いと涙夜も更けて尚



旧大郷小学校

58年3月の閉校式で

幾千の地区民が この地で学び、育った

私の思い出 昔のわが街



語る人 長谷川邦夫さん(横垣・農業・64歳)

かさかさと、北風に泣くかのように残されたシュロの葉の乾いた音。この地に昔、500人余りの児童と100年の歴史を誇った「大郷村立大郷尋常小学校」があったのだと、感慨にふけるのは私一人ではないでしょう。残された草木にそれぞれの思い出が染み込み、いつの日か整地される日を待ち望んでいるようです。

払い下げになった校舎跡には民家が建ち始め、元の校庭にはゲートボールコートが2面ほど、往時の歴史を秘めて、ひっそりと陽春を待っています。象徴的存在だった「三本松」も校舎より一足先に消え去り、有志が植えた「赤松2世」がありし日の栄光の歴史を受け継ごうと、けなげにもがんばっているようです。幾千の地区民がここで学び、育った。喜びも悲しみも、地区民の人間形成上のあらゆるものがこの地を基に発展し、昇華し、開花した由緒ある土地です。

時を経てこの地を歩き回り、去りがたくなるのは私の年齢のせいでしょうか。1日も早く、このうらぶれた風景がりっぱに整理されるよう願っています。